

『もしかすると、この時のため』～『励ましの言葉』～

2026 年 8 月 19 日千葉県の【柏豊四季台団地の中央にある地域包括ケアシステムの要ともいえる『柏地域医療連携センター』】での『柏がん哲学外来』（担当者：『がん哲学外来あびこカフェ』の代表でもある中野綾子氏）に赴いた（画像）。3 組の個人面接の機会が与えられた。【『もしかすると、この時のため（エステル記 4 章 14 節）』をさりげなく語った。今回、【早稲田大学エクステンションスクール中野校 ジャンル 人間の探求 講座『がんと生きる哲学：医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える』を受講され記念誌『使命と役割』に気づく ～ 逆境からの学び ～』】の編集委員『小暮信子氏 & 今村明珠砂氏』も参加されていた。大いに感激した。

『柏がん哲学外来』は、2009 年当時の国立がんセンター東病院の病院長の江角浩安先生のお計らいで、柏の葉キャンパス駅隣接の国立がんセンター東病院の施設ビルで開始し、その後、施設ビルがなくなり、2016 年からは、現在の柏地域医療連携センターに移動された。2024 年 6 月 27 日は、『柏がん哲学外来 15 周年記念講演会』（柏地域医療連携センターに於いて）を企画された。大いに感動したものである。今年（2026 年）は、『柏地域医療連携センターに移動 10 周年』でもある。

筆者は、癌研時代、菅野晴夫（1925-2016）先生の恩師である日本国の誇る病理学者：吉田富三（1903-1973）との出会いに繋がった。菅野晴夫先生の下で、2003 年吉田富三生誕 100 周年記念事業を行う機会が与えられた。必然的に『がん哲学』の提唱へと導かれた。『がん哲学』とは、東大総長南原繁（1889-1974）の『政治哲学』と、元癌研所長で東大教授であった吉田富三の『がん学』をドッキングさせたもので、『がん哲学 = 生物学の法則 + 人間学の法則』である。

2008 年 1 月 【『顕微鏡を見て病気を診断する = 森を診て木の皮まで診る = 病理医の実践』が、順天堂大学病院の診察室で『病気』であっても『病人』ではない社会の構築を目指して『がん哲学外来』が開設された】。『がん哲学外来』開設時に、【『癌研所長：菅野晴夫先生、国立がんセンター総長の杉村隆（1926-2020）先生、吉田富三博士の長男で、NHK のプロデューサーであった吉田直哉（1931-2008）氏』】から『快挙であるとの励ましのお言葉』を頂いた。そして、2008 年の 10 月 病院外での『がん哲学外来』（画像）が始まったものである。『がん細胞の発生と成長に 哲学的な意味を見出そうとする病理学者の出会いの場』でもある。

柏がん哲学外来

がんの悩みを病院の外で心置きなく話したい
がん哲学外来は、がん患者、経験者、ご家族の為の対話の場です。
がん哲学外来を提唱された樋野興夫先生と
ゆっくり語り合ってみませんか？

費用無料
1日3組まで
要予約

面談時間(45分)

- ①9時15分～10時
- ②10時～10時45分
- ③10時45分～11時30分



順天堂大学名誉教授
がん哲学外来市民学会代表
一般社団法人がん哲学外来名誉理事長
新渡戸稲造記念センター長
樋野 興夫

申し込みフォーム



【主催】 柏がん哲学外来
【後援】 柏市
一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会
【問い合わせ】 090-4619-6933 (中野)

2026年

4月30日(木)
5月27日(水)
6月25日(木)
7月30日(木)
8月19日(水)
9月16日(水)
10月29日(木)
11月26日(木)
12月24日(木)

2027年

1月28日(木)
2月25日(木)
3月25日(木)

面談会場
柏地域医療連携センター

【柏西口からバスでの行き方】
2番乗り場からのバスでも可
「向原往電」下車
通行方向信号を左折2分



がん哲学外来とは・・・



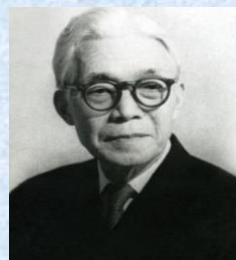
吉田富三



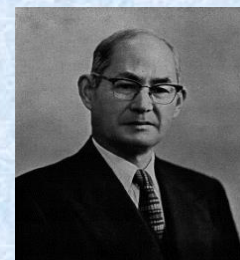
新渡戸稲造



内村鑑三



南原繁



矢内原忠雄



樋野興夫

吉田富三のがん学と、南原繁の政治哲学

2008年 がん哲学外来 開設